

あなたに与えられている神の賜物を

テモテへの手紙 二 1:1-14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年10月2日
聖霊降臨後第17主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日は使徒書として「テモテへの手紙 二」が朗読されました。先主日までは「テモテへの手紙 一」が 3 回続けて読まれ、今日からは「テモテへの手紙 二」が 4 主日連続して朗読されます。そこで今日はテモテという人物に注目してみましょう。

テモテはおそらく小アジア（今のトルコ）のリストラという所の出身で、パウロの同労者です。彼の母親はエウニケという人でユダヤ人、父親はギリシア人です。彼の信仰は祖母のロイスと母エウニケから受け継いだものですが、同時にパウロから強い影響を受けました。

パウロはテモテを非常に好ましく思い、彼を伝道旅行に伴いました。使徒言行録には「**パウロは、このテモテと一緒に連れて行きたかったので……**」（16:3）と記されています。

それでテモテはパウロに同行して、伝道の喜びと苦勞を共にしました。一緒に活動をした都市を挙げると、フィリピ、テサロニケ、ベレア、コリント、エフェソなどです。またテモテは、新約聖書のパウロの手紙のうち、四つの手紙で、共同の差出人になっています。どういうことかと言うと、例えば「フィリピの信徒への手紙」の冒頭はこうです。

「キリスト・イエスの僕であるパウロとテモテから……」

パウロがどれほど彼を信頼していたか、またどれほど深い協力関係を持っていたかが分かります。テモテはやがて若くして

エフェソの地域の監督になり、宣教と牧会に心を砕きました。
そうして何年経ったでしょうか。

今、テモテは元気がありません。非常に苦勞して、力を失っているようです。そこでパウロはとても心配して手紙を書いて、テモテを力づけようとなりました。これが「テモテへの手紙 二」です。

パウロはエフェソ教会の状況をかなり具体的に把握していたようです。たとえば「**俗悪な無駄話**」(テモテ二 2:16) や「**愚かで無知な議論**」(2:23) にふける人たちがいて、その悪い影響が広がっている。やたらに反抗的態度をとったり、人を中傷したりする人たちがいて、争いが生じている。教会を内部から破壊するような悪しき力が働いている。こうした中でテモテは疲弊しているようです。パウロはテモテの心に語りかけたいと願いました。

「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、愛する子テモテへ」 1:1-2

パウロはまず、自分がテモテのために祈っていること、また感謝していることを述べます。

パウロがテモテのことを思うとき、忘れられないことが一つあります。それはかつてテモテが流した涙のことです。

「わたしは、あなたの涙を忘れることができず、ぜひあなたに会って、喜びで満たされたいと願っています。」1:4

どういう時に流した涙かはわかりませんが、それは信仰の涙です。神を信じるがゆえの涙、イエスを愛するがゆえの涙。あのテモテの涙を思い出すとき、パウロはテモテに対する愛おしさがこみ上げてきます。

今、あまりの苦勞のゆえに、テモテの信仰は弱っているかもしれない。けれどもテモテの信仰は心の底で生き続けているはずです。パウロはこう語りかけます。

「そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。」1:5

テモテは3代目のクリスチャンということになります。

皆さんは何代目でしょうか。初代の方もいらっしゃると思います。初代は素晴らしい。主イエスを信じて自分の決意で洗礼を受けた。別の方向から言えば、神さまが多くの人の中からわたしを呼び出してくださった。初代の人には奇跡的な神の恵みを受けたのです。

しかし同時に、2代目3代目……はまた大きな恵みを受けています。やや謙遜して、あるいは卑下してか「ボーンクリスチャ

ン」という言い方をすることがあります。しかしポーキリスチャンも素晴らしい。ただ血のつながりというだけではなく、信仰のつながり、信仰の継承がある。わたしの信仰はわたしの信仰であるばかりではなく、父母の信仰、祖父母の信仰としっかりつながっている——そういう確かさがあります。初代であっても2代目3代目であっても、教会の先輩の信仰からつながっている、という意味では同じです。

話を戻しますが、パウロは、テモテの信仰は大丈夫だと励ますのです。

「あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。」1:5

次にパウロは、かつてテモテに与えられたはずの神の賜物について思い出させようとしています。

「そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」1:6-7

「わたしが手を置いた」というのは、パウロが以前にテモテ

の頭に手を置いて祈った時のことです。今で言う、聖職按手のことではないでしょうか。

按手においてあなたは神の賜物をいただいた。神の賜物とは聖霊の火です。神は、テモテよ、あなたに「**力と愛と思慮分別の霊**」を与えてくださった。これはあなたの信仰と働きの土台であり支えです。これが与えられているのだから、大丈夫、あなたは務めを行うことができる。

言い伝えによれば、後にテモテはエフェソで殉教したと言われます。彼はしっかり立ち直ったに違いありません。

もう一度聞きましょう。

「わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」1:6-7

「わたしたちに」と言われていることに注意しましょう。ここではテモテとパウロのことですが、しかしそれは、今この言葉を聞いているこのわたしたちのことでもあるのです。

わたしたちは手を置いて祈ってもらったことがあるでしょうか。あるのです。具体的に言えば、**洗礼と堅信、祝福の祈り**です。堅信は「信徒按手」とも言いますね。

それによってわたしたちは、自分でそうかもしれないと思う

程度ではなく、客観的に神さまから良い賜物をいただいた。それは聖霊の火です。「力と愛と思慮分別の霊」をわたしたちもいただいたのです。テモテに与えられたと同じ賜物をわたしたちも受けています。

「力と愛の霊」を受けたから、わたしたちは隣人に良いことをすることができる。義務感によってではなく愛をもってそれを行うことができます。「思慮分別の霊」を与えられたのなら、きっと適切な判断を行うことができるでしょう。

パウロはわたしたちにも言います。聖霊の火を消さないように。隠さないように。「あなたに与えられている神の賜物を、再び燃えさせたせなさい。」

今、主イエスがわたしの頭に手を置いてくださると思ってみましょう。温かな手、優しい手、力ある手です。イエスの手から愛と力が、わたしの心と体に浸透していきます。臆病ではない、力と愛と思慮分別の霊がわたしの中で働き始めます。

祈ります。

神さま、あなたがわたしたちに与えてくださった賜物を燃えさせたせてください。あなたが与えてくださった力と愛と思慮分別の霊によって、良いことを行わせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン